

高取町の教育

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から見える高取町の子ども

1 調査の概要について

○ 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。更に、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○ 実施日：平成28年4月19日（火）

○ 調査対象とする児童生徒：小学校第6学年（46名）、中学校第3学年（57名）

○ 調査事項及び手法

- ・ 質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。
- ・ 教科に対する調査〔国語、算数・数学〕

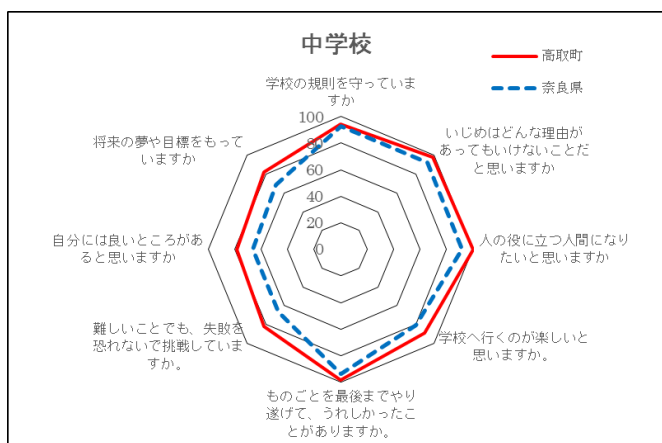
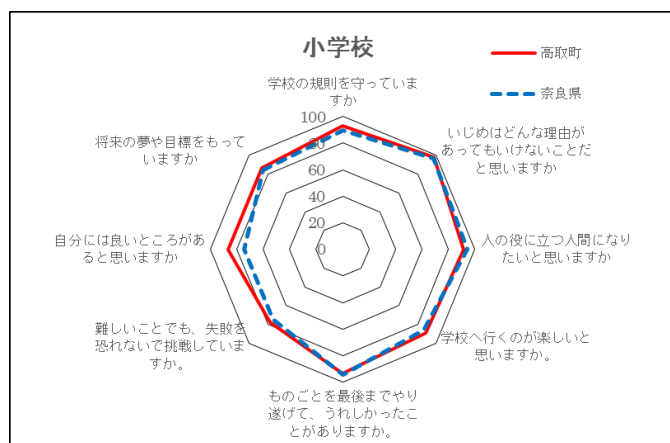
それぞれ「主として『知識』に関する問題」を（A）、「主として『活用』に関する問題」を（B）として出題。

○ グラフの見方

- ・ グラフの数値は素点（テストの点数）ではなく、正答率（最高100%）です。
- 赤のグラフが青のグラフより大きい ⇒ 高取町の成績が県平均を上回っている。
- 赤のグラフが青のグラフより小さい ⇒ 高取町の成績が県平均を下回っている。

2 調査結果について

○ 生活習慣や学習環境等に関する調査（抜粋）

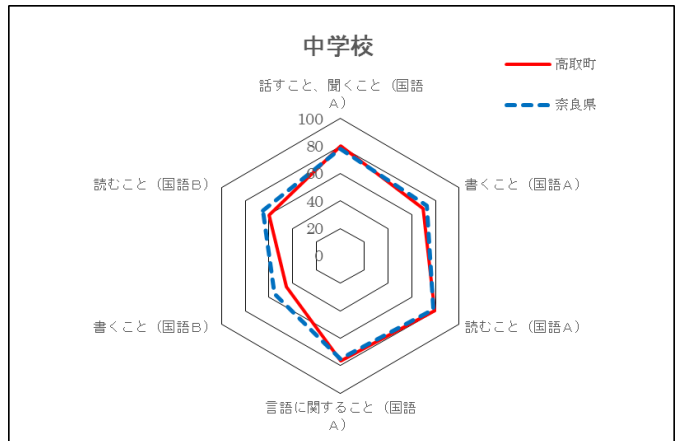
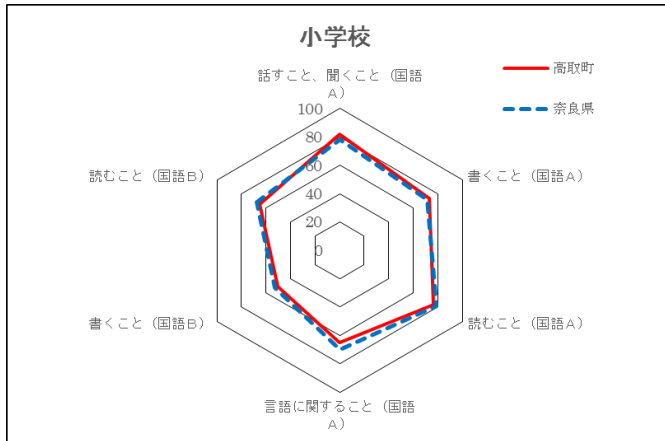


本町の児童・生徒のすがた

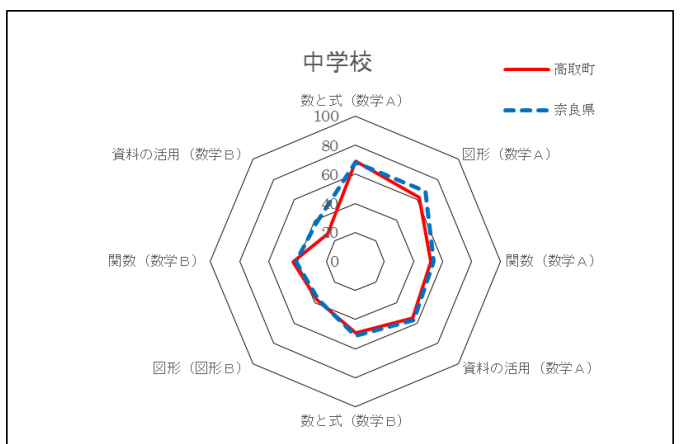
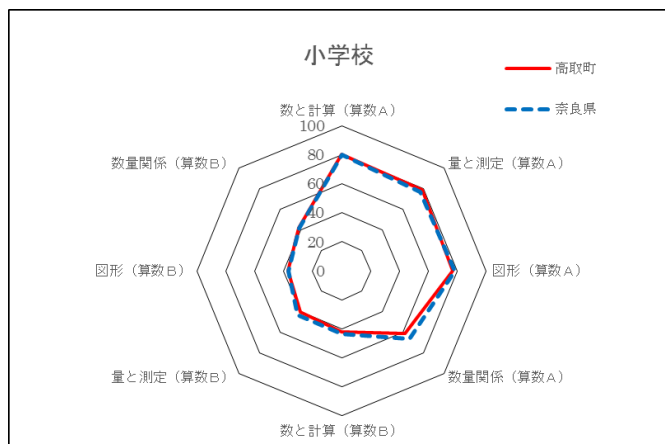
- ・ 小学校は、「学校へ行くのが楽しいと思いますか」、「自分には良いところがあると思いますか」、「将来の夢や希望を持っていますか」、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」の項目が県平均を上回っており、学校生活を安心して送り、自己肯定感があると考えられます。
- ・ 中学校は、すべての項目で県平均を上回っています。特に、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について全員が肯定的な回答をしています。また、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」、「自分には良いところがあると思いますか」、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目は県平均より10ポイント以上、上回っていることから、今までの学校生活でさまざまな体験をして、難しいことも乗り越えてきた結果であると考えられます。そして、それらの体験から「自分の夢」を描き、挑戦していく行動が芽生えてきていると考えられます。
- ・ 小中学校とも、「学校の規則を守っていますか」、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」、「将来の夢や目標を持っていますか」という項目が高い傾向を示しています。このことから、「学校での学び」、「保護者の励まし」、「地域の見守り」が良好であり、子ども達の「規範意識」や「自尊感情」が育ち、自分の将来に夢をもって努力しようという姿が見られます。

○ 学力に関する調査

国語



算数・数学



本町の児童・生徒のすがた

- 小学校の国語は、「話すこと、聞くこと」、「書くこと」の基礎力については、県平均を上回っていますが、応用力に課題が見られます。特に言語に関する基礎的な知識が弱いと考えられます。
- 小学校の算数は、「数と計算」、「量と測定」等の基礎力については県平均と同様ですが、「数量関係」に課題が見られます。また、応用力に課題があると考えられます。
- 中学校の国語は、基礎的な項目については、概ね県平均と大きな差は見られませんが、課題を自身で決定し、情報を集めて解決する方法を考え、文章で表現する応用力が弱いと考えられます。
- 中学校の数学は、若干県平均を下回っている傾向があります。計算等の基礎的な事柄は身につけているが、数量関係を文字式で表す、資料の傾向を数学的な表現で説明する等の事柄が弱いと考えられます。
- 小中学校とも、与えられた文章や資料から、自分の考えをまとめて表現する力が弱いと考えられます。

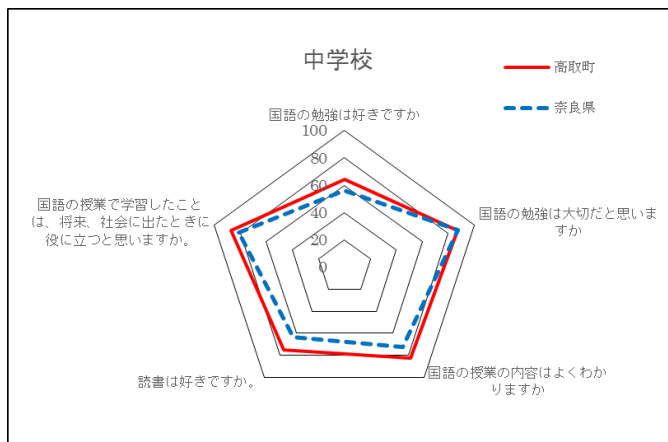
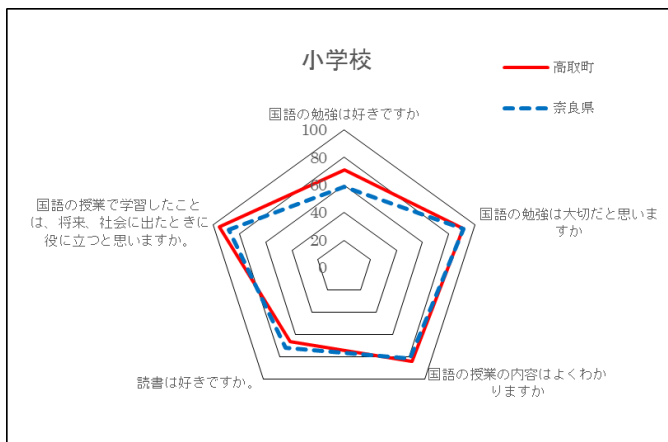
3 課題に対する改善方法

- 小学校は、基礎力の向上を図るため、継続して「朝学習」に努めます。また、縦割り班活動を今まで以上に充実させることにより人と関わる機会を増やし、その意義や楽しさを理解し、互いを認め合うことのできる環境づくりに努めます。家庭学習を充実させるために保護者との連携を密にし、学習内容の連絡を行い、学習習慣の確立を図ります。
- 中学校は、学習面では国語・数学ともに基礎的な知識があるものの、その知識をどのように使い、さまざまな課題を発見し、解決していくという力が弱いと考えられます。平成33年度完全実施される新学習指導要領では、「確かな学力」、「健やかな体」、「豊かな心」を育成すべき資質・能力としています。特に「確かな学力」のために、「アクティブラーニング」が導入され、今までより深い学びを求められています。教師も研修を深め、新しい学びについて習得し、子ども達の学力向上を目指します。生活面ではすべての項目について相対的には県平均を上回っています。しかし、本町の数値だけを見ると「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」、「自分には良いところがあると思いますか」、「将来の夢や目標をもっていますか」の項目は約20%の子ども達が、否定的な回答をしています。この子ども達の「自尊感情」を高めることが課題であると考えられます。また、今年度から各学期に1度ずつ二者懇談を実施し、子ども達の思いを教師が理解し、個々の目の前の目標を教師と共に設定して、それをクリアし次の目標を設定していきます。この繰り返しをすることで「自尊感情」を高め、「将来の夢」を持てるような環境を作ります。
- 小中学校とも、学んだ知識をどのように使い、学力を深めていくかが課題となっています。その導入として、子ども達が自分たちの考えや意見を交流しあい、それをまとめて表現していくというグループ活動を、授業の中で進めていきます。

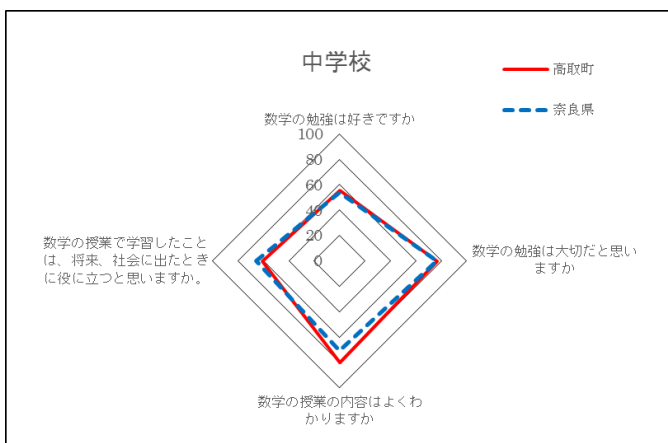
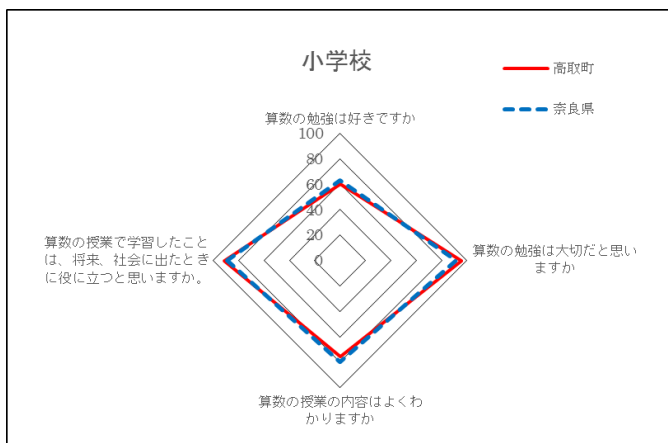
参考資料

○ 学習状況に関する調査（抜粋）

国語



算数・数学



本町の児童・生徒のすがた

- ・ 小学校は、「読書は好きですか」の調査項目が、県平均に比べて低くなっています。児童に読書への興味や関心をもたせることが大切だと考えます。
- ・ 中学校は、落ち着いた環境で学習に取り組んでいます。基礎的な知識も概ね身につけています。しかし、その知識を使って自分の考えを表現する力に課題があると考えられます。